

原年

今

田

紫  
第

南

女  
第

種  
房



倭 后 愿 年  
中 集

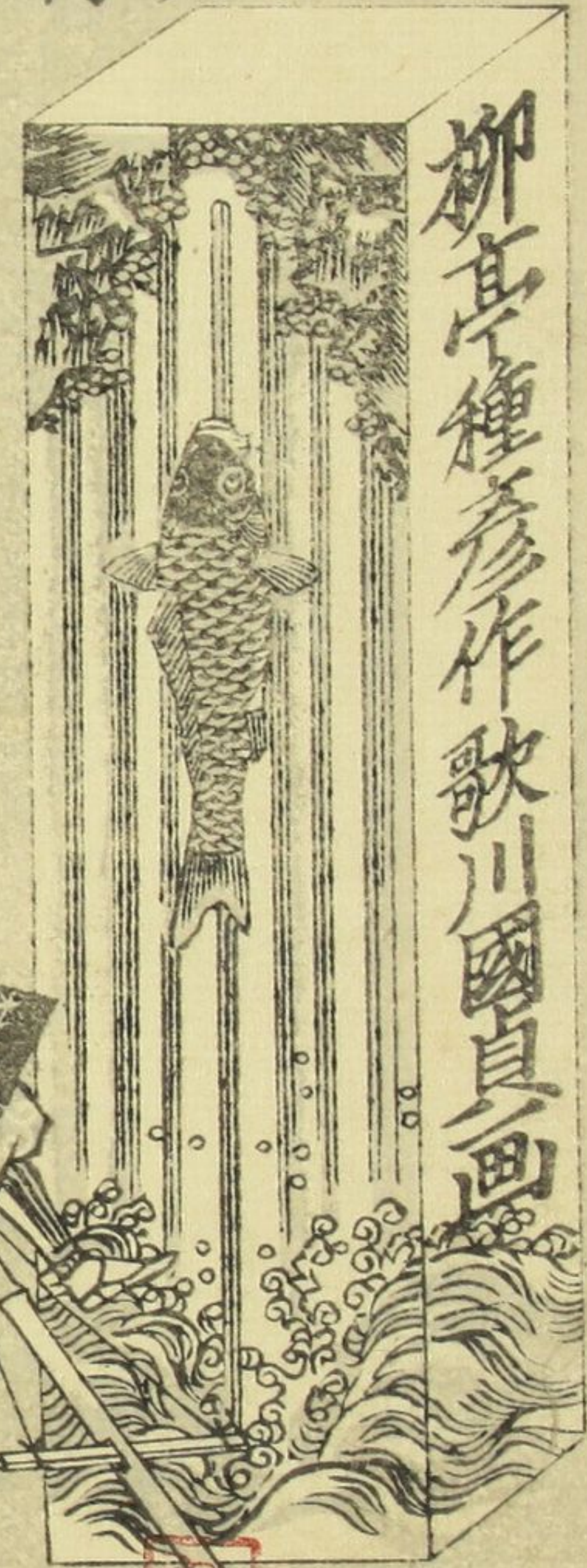


上編十二

さりのみ

天保 丙申 孟春 發行

柳亭種彦作歌川國貞画



上冊

東都

通油町

鶴屋

喜右衛門

版

# 倭紫 田舎源氏

## 第二十編

### 倭紫田舎源氏第二十編叙

忠臣藏の五段目ハ猶ホおそれて定九郎が迹あむと云ふは後炮の  
 音をうりて幕とす。ちア勘平も亦まじの心右衛門が羽衣定九郎が  
 うされハ隠れ向ありハ腹切が重なりて見物の氣がめいんか  
 故悪の報と目赤にあちよくをえせしと云ふ頃ハ此石も強冊ふ  
 る不もと眼氣のさ事。是ハ是なるぬと巳の日の枝果ハ我身は  
 と白本綿うけ山伏の祈りの段の冷系持り。打通りぬへは換炮雨  
 落かりぬへく震動電。あまを見送る白糸がふも燃りかへて死する  
 後炮は似てらんを彼定九郎が例ふより人をも飽せしと云ふは  
 巻が早うち筆へ糸地のくるるももく迫づく巻の門。神樂  
 獅子より先へいんえんは賣物と急がれて最念。筆上程を脱  
 けおるまゝがの落し。場をたりてさるる場を  
 よこ切りさるるおかれまゝをさるる形をこ

柳亭種彦記



宗入の愛玉  
朝霧

今も  
あまの  
うら  
せ

朝霧  
侍の  
女  
鳥

源氏二十編

三

Handwritten text in the upper right corner, likely a title or introductory note.



Handwritten text within the circular frame, positioned above the figures.

Handwritten text in the lower right corner, possibly a commentary or a specific scene description.

Handwritten text at the bottom of the circular frame, below the figures.

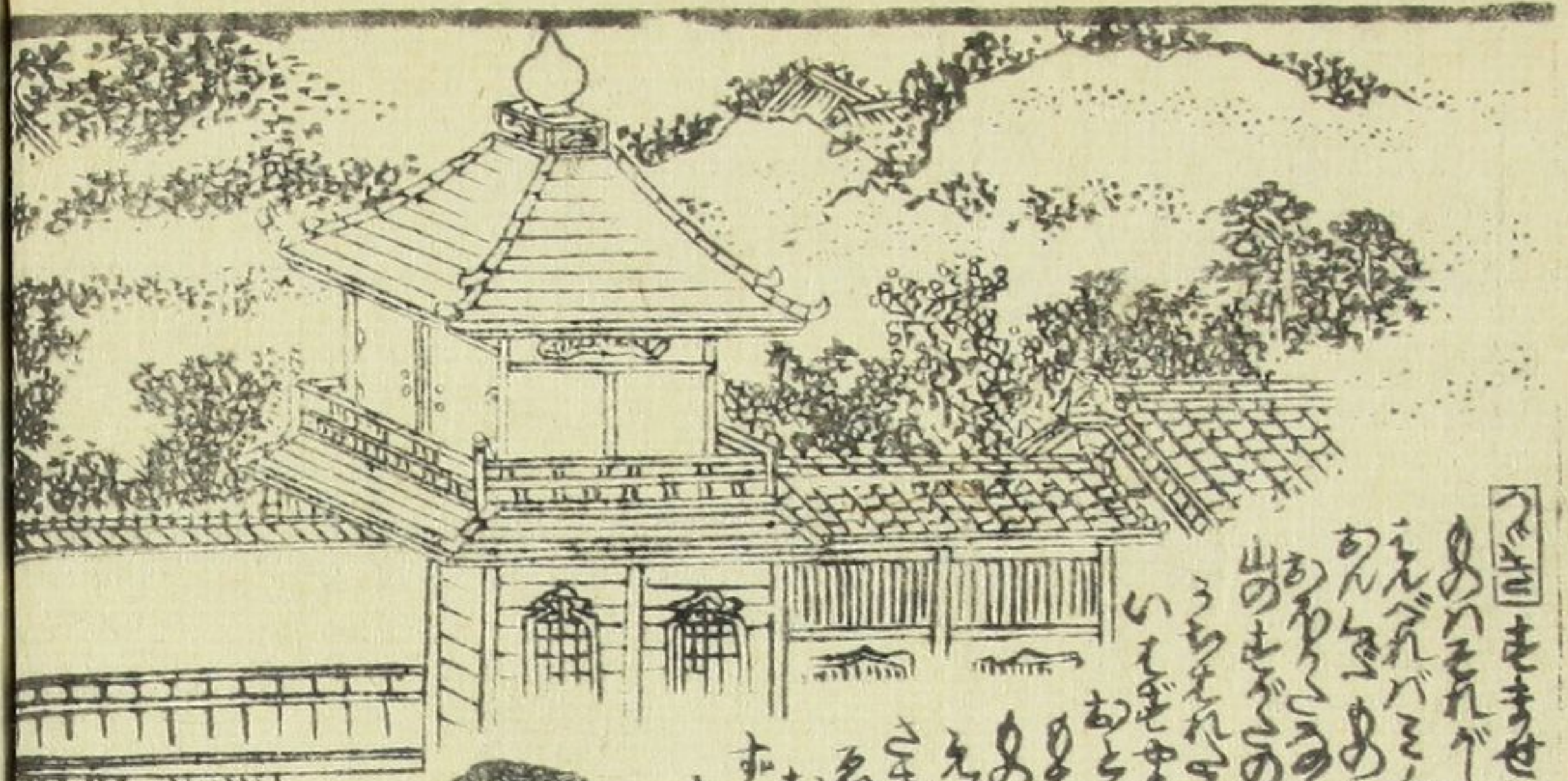
Handwritten text in the upper left corner, likely a title or introductory note.



Handwritten text within the circular frame, positioned above the figures.

Handwritten text in the lower left corner, possibly a commentary or a specific scene description.

Handwritten text at the bottom of the circular frame, below the figures.



ふきまませふかひてなまなうみあを  
あなれがけつりて人男をんあ  
えんげんまなまをえりまきとまけ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ



あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ



京へまて  
まがまうて  
日本を  
あひあひあふくをうてききりあ

あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ  
あひあひあふくをうてききりあ









○老氏のてまつりしはつらなむ  
はあつたてのむらりのむらひ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
くまをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ

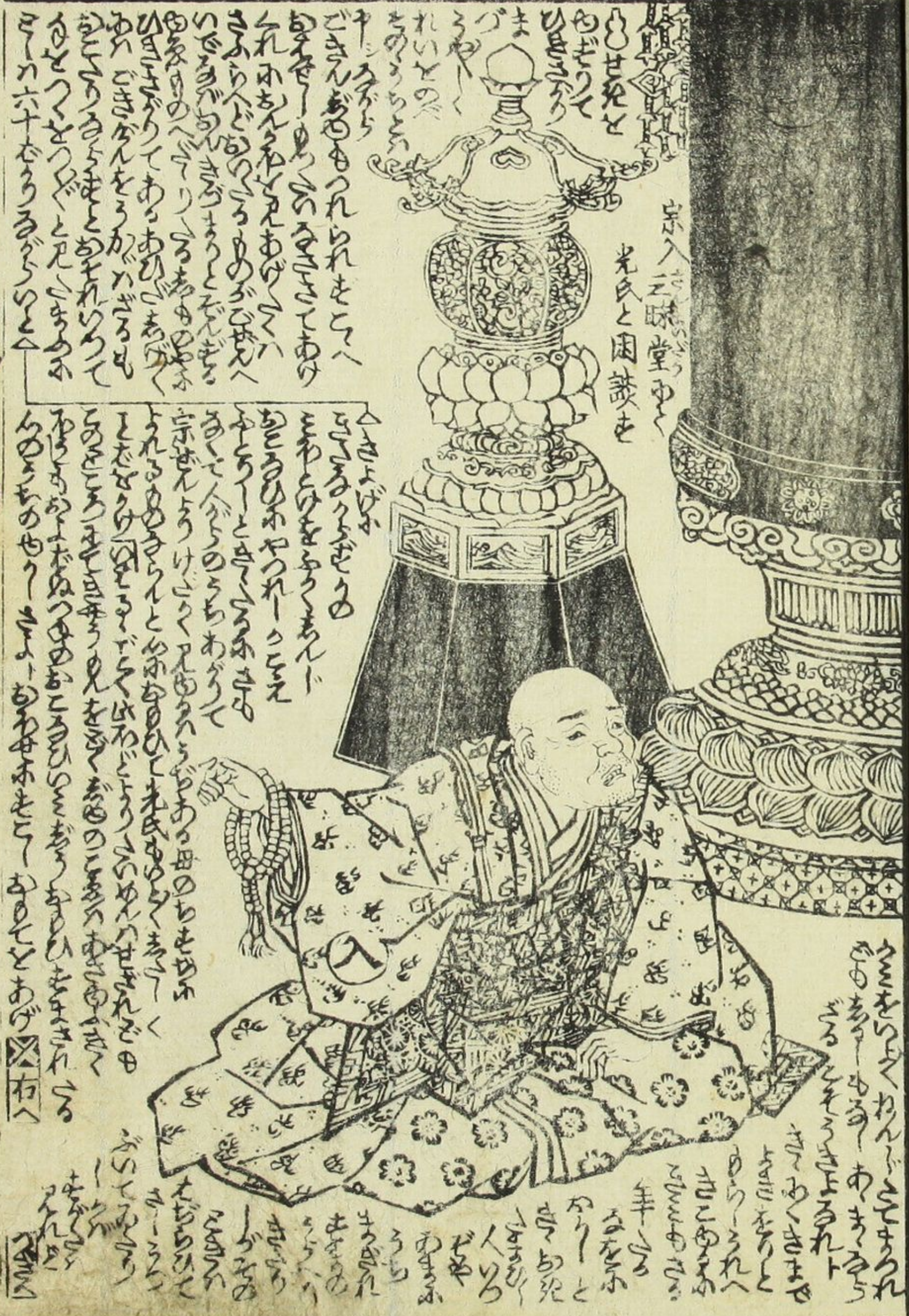
○老氏のてまつりしはつらなむ  
はあつたてのむらりのむらひ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
くまをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ

○老氏のてまつりしはつらなむ  
はあつたてのむらりのむらひ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
くまをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ



○老氏のてまつりしはつらなむ  
はあつたてのむらりのむらひ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
くまをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ

宗入の御堂ゆめ  
光氏と因談を  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
くまをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ



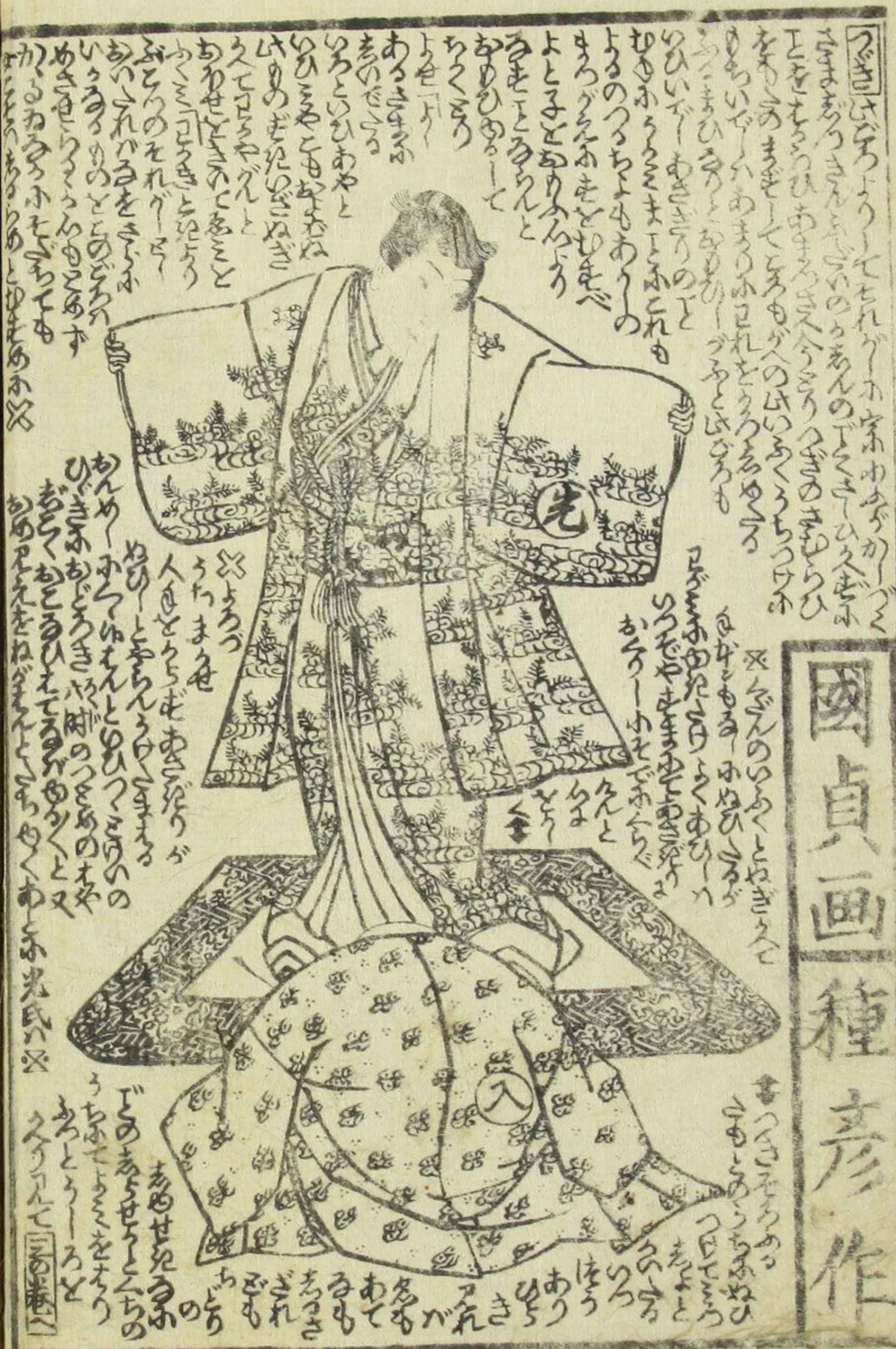
宗入の御堂ゆめ  
光氏と因談を  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
くまをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ

○老氏のてまつりしはつらなむ  
はあつたてのむらりのむらひ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
くまをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ  
ゆめをみてあつたひさぎふ





國貞画種彦作



天保七年丙申春新彫

あせむらぶるゐるう げん  
**傍紫田舎源氏**

七年十八編より廿二編まで開板おかしきすし終巻に程奉布の

柳亭種彦作  
 歌川國貞画

ひとすぢらもちのこまわ  
**一筋道雪眺望** 全四冊

笠亭仙果作  
 歌川國芳画

椀久の十徳  
 後伊の紙子 **世話家永** 全四冊

笠亭仙果作  
 歌川貞秀画

種彦校合  
 井筒屋の義孝  
 八百屋乃娘 **紫房紋多箱**

仙客亭柏琳作  
 歌川貞秀画

いとやういささのそんむか  
**糸柳花縁結** 全四冊

笠亭仙果作  
 歌川貞秀画

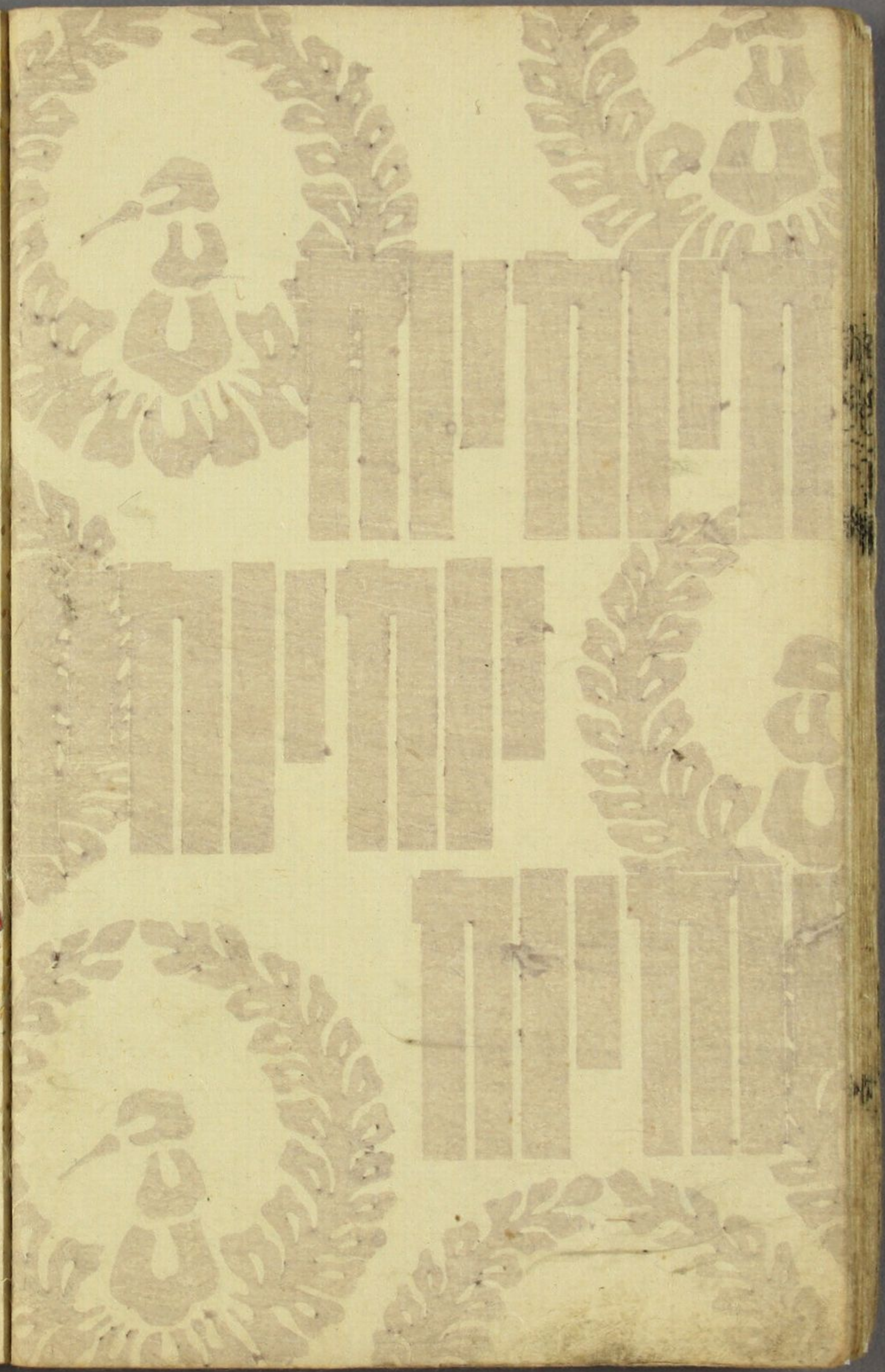
新編あそび袋入  
 小治ささり  
 種彦書貞秀画  
 昔新さちんさく二冊  
 ひう諸浦島づい三冊  
 茶峯のいろは二冊  
**書物地本錦繪問丸**  
 通油町仙鶴堂鶴屋喜右衛門

種彦  
作  
白  
画

二十編下



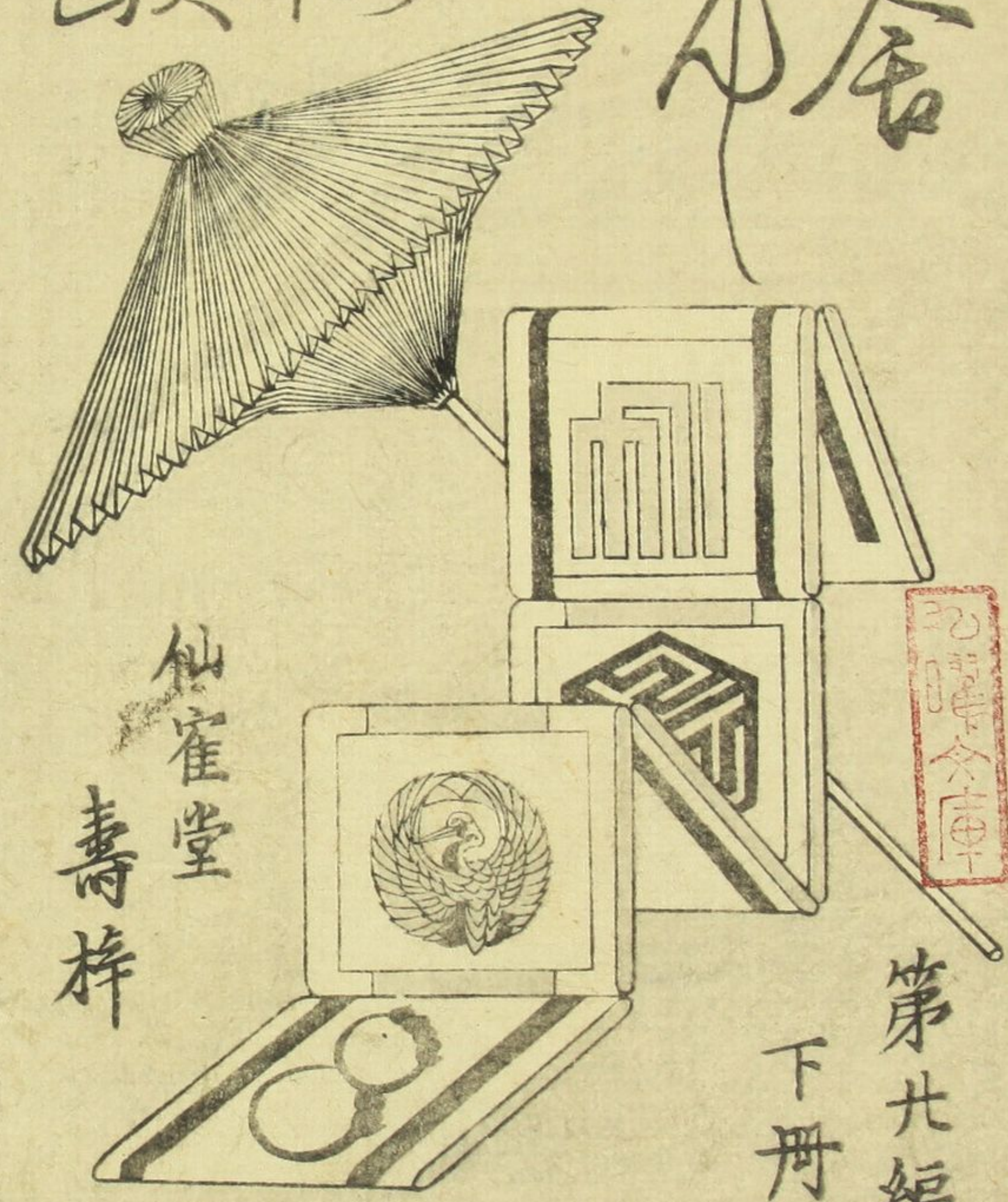
鶴彦  
輝





仙窟堂

種考 田舎  
 作 貞画  
 け



仙窟堂  
 壽梓

第九編  
 下冊

仙窟堂



源氏二十編
あつたまをひら
まがらうをくとうち
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら

源氏二十編
あつたまをひら
まがらうをくとうち
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら
まがらうをひら





入るる物持りひきまをあらまき人住とつらして  
うらうらのるれがうらうらとくちかたがはまきの  
まふしうがらんくちあわらとま俗言よひさるあり  
つりーがあやうのまき一はまあるあせんくさうて昔の  
しんもかろうりらうまきあひくちあまねをあらがしひ

山名持姿  
後宗入

まのつらまきまきうら  
あまねら入ひきまのいと  
しんかまき一まきのま  
あまねら入ひきまのいと  
まのつらまきまきうら  
あまねら入ひきまのいと  
しんかまき一まきのま  
あまねら入ひきまのいと



うらひ  
るあくま  
とこれ吉め  
うらひせて  
先氏も  
ひきまきと  
まのつらまき

あまねら入ひきまのいと  
しんかまき一まきのま  
あまねら入ひきまのいと  
まのつらまきまきうら  
あまねら入ひきまのいと  
しんかまき一まきのま  
あまねら入ひきまのいと

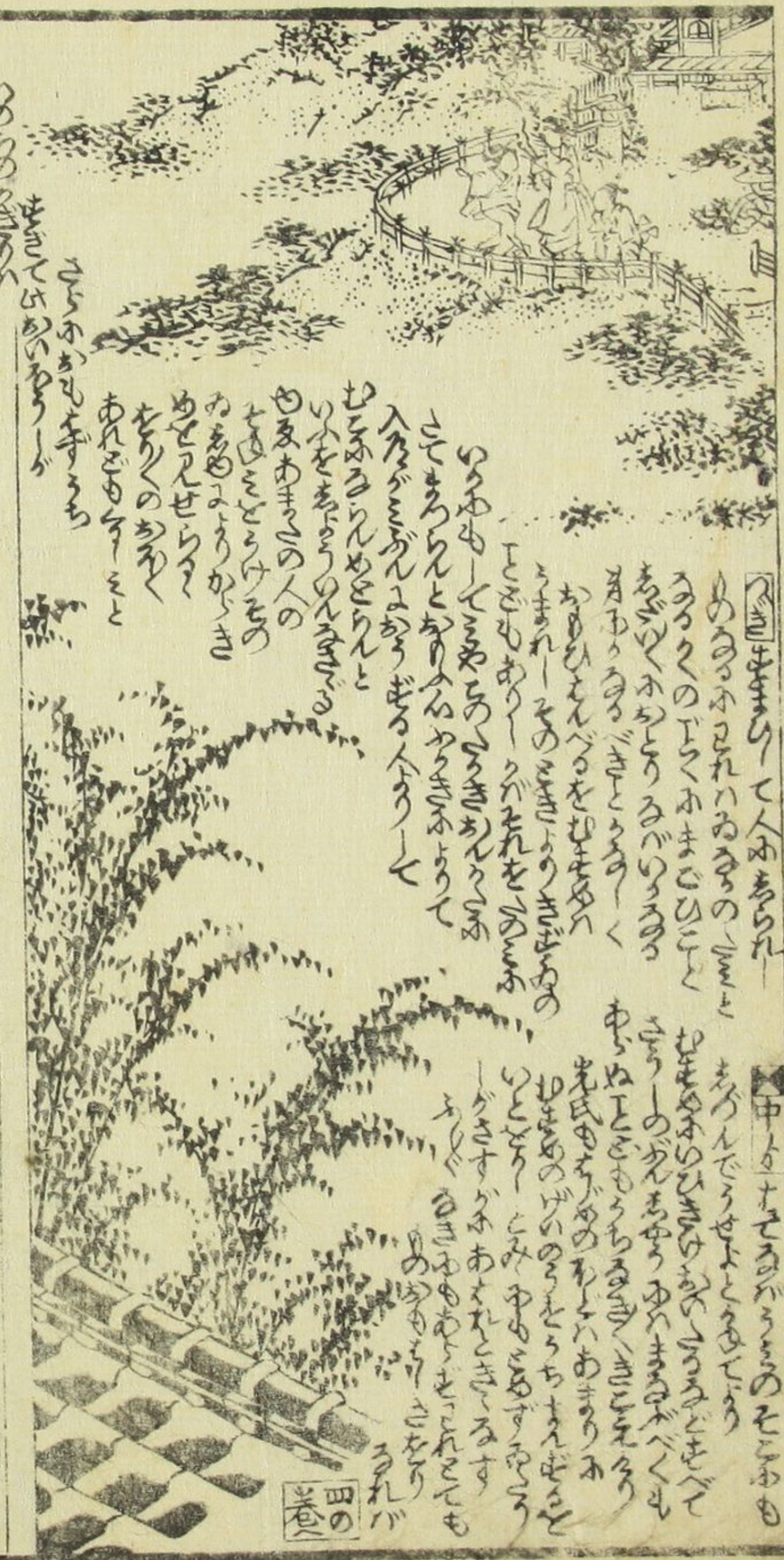


ひきまのあま入  
まのつらまき  
あまねら入ひきまのいと

知義の  
對後の  
嵯峨の後室とい是也

あまねら入ひきまのいと  
しんかまき一まきのま  
あまねら入ひきまのいと  
まのつらまきまきうら  
あまねら入ひきまのいと  
しんかまき一まきのま  
あまねら入ひきまのいと





世にわたりて人めあられ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ

あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ

あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ

四



あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ

あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ

あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ  
あつてのこころはまひこころ



けきりつゝあまのまひてあらうり  
 けきりつゝあまのまひてあらうり  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



...  
 ...  
 ...



...  
 ...  
 ...  
 ...

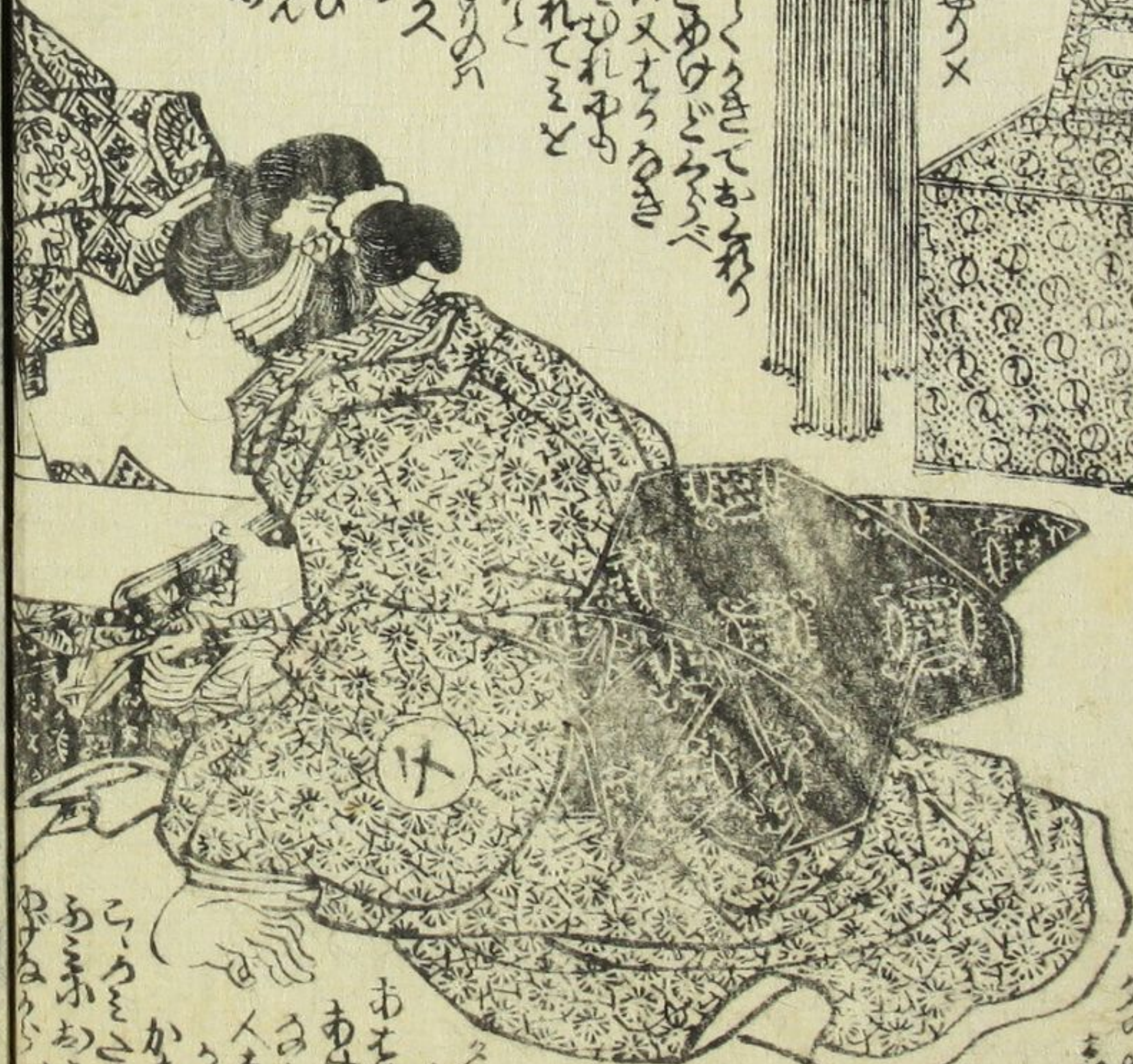
...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...



そきとぞりあるに  
そのあはれに  
おもひきまふ  
夜もがらふるきあせ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ

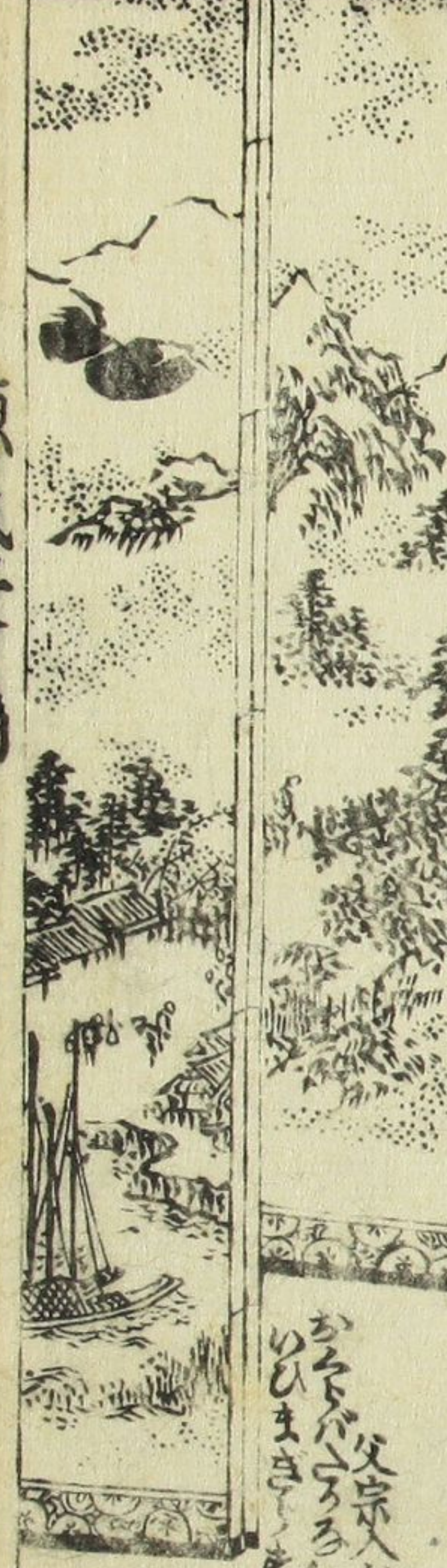
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ



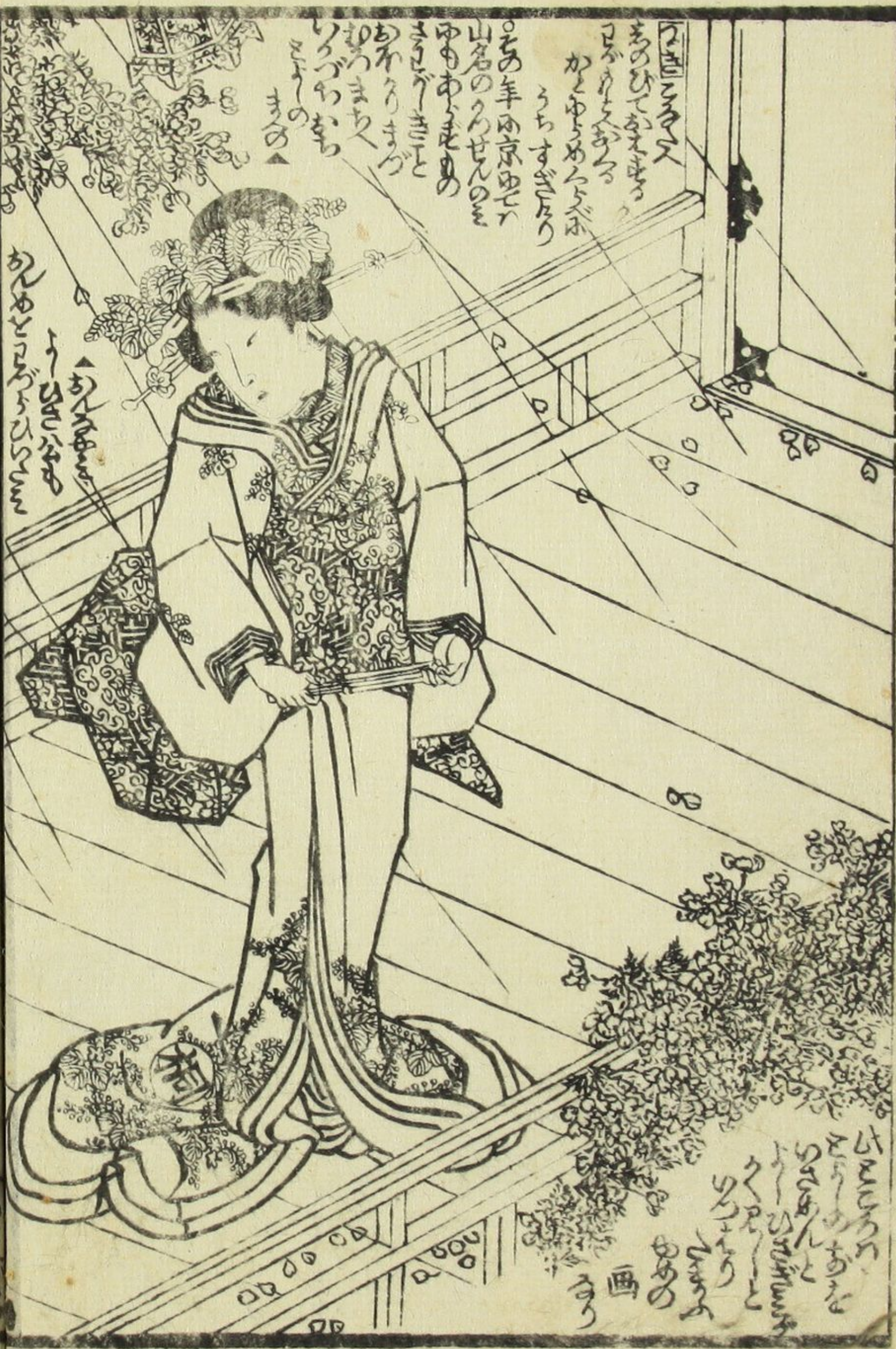
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ



おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ



おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ  
おもひきまふ



かのゆきあつとふか  
 うちすけの  
 かのゆきあつとふか  
 うちすけの  
 かのゆきあつとふか  
 うちすけの

かのゆきあつとふか  
 うちすけの

かのゆきあつとふか  
 うちすけの

かのゆきあつとふか  
 うちすけの



かのゆきあつとふか  
 うちすけの

かのゆきあつとふか  
 うちすけの



# 柳亭種彦作

此圖は種彦の筆で、名物の山吹を、

# 歌川國貞画



山東京山作  
琴声女房形氣 全四冊  
歌川國貞画

## 天保七年申春新彫

森羅萬象心意氣 全四冊  
歌川國芳画  
浮波さしり 八冊  
歌川貞秀画

烏勘左衛門忠義傳 會冊  
歌川國芳画  
縮葉山操の松枝 全四冊  
宝田千町作  
國字水滸傳 十四編 四冊  
歌川國芳画

所かしの茶おりの  
美艷仙女香早八拍 三丁目西側  
坂本氏制衣  
黒油羨玄香早八拍 坂本氏制衣

書物錦繪 江戸通油町  
問屋鶴屋喜右衛門



多海

